

環境経営レポート

第3版

対象期間 2023年10月1日 ～ 2024年9月30日



株式会社永広産業

2025年1月31日発行

目次

1	組織の概要	3
2	環境経営方針	5
3	実施体制	6
4	環境経営目標	7
5	環境経営計画	8
6	環境経営目標の達成状況及びその評価結果	9
7	環境経営計画の実施状況及び評価結果、次年度の取組内容	12
8	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	13
9	代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果	14

■事業所名及び代表者名

株式会社 永広産業 代表取締役 永広和也

■所在地

本 社 〒861-0131 熊本県熊本市北区植木町広住1061番地

資材置場 〒861-0131 熊本県熊本市北区植木町広住1017-1

資材倉庫 〒861-0131 熊本県熊本市北区植木町広住1059-5

■環境管理責任者・担当者・連絡先

環境管理責任者 永広 和也

担当者 乙 知佳

連絡先 TEL 096-272-5899

FAX 096-272-5872

E-mail info@nagahirosangyo.com

■事業内容

土木工事業、とび・土工工事業、一般貨物自動車運送業

■許認可業種

特定建設業 熊本県知事許可（特-2）第9334号

産業廃棄物収集運搬業許可 熊本県知事 第04301148331号

一般貨物自動車運送事業許可 九運貨物第627号

排水設備指定工事店証 指定番号 第678号

指定給水装置工事事業者証 指定番号 第669号

■事業の規模

資本金 4,000万円 売上高 233百万円/2023年度(36期)

事業年度 10月～9月 従業員数 13名

延床面積 200.76 m²

■会社の沿革

昭和52年4月 永広産業創業

平成元年2月 「有限会社 永広産業」設立

令和06年9月 「株式会社 永広産業」に社名変更

代表取締役社長 永広和也 就任

■会社が保有している主な設備

【車両】

- ・10 t ダンプ車：6 台
- ・高所作業車：1台
- ・20 t 積重機運搬トレーラ：1台
- ・軽トラック車：3台
- ・4 t 散水車：1 台
- ・軽ワゴン車：3台
- ・3 t ユニック車：1台
- ・9 t ユニック車：1台
- ・3 t ダンプ車：4台
- ・3 t パワーゲート車：1台
- ・13 t 重機運搬車：1台

【重機】

- ・バックホウ：15台
- ・4tコンバインドローラー：1台
- ・1tコンバインドローラー：1台

【給油所】

- ・自社軽油給油所



令和6年8月設置

■認証登録対象範囲

- ・対象組織・・・・・・・・・・本社・資材置場・資材倉庫
- ・対象活動・・・・・・・・・・土木工事業、とび・土工工事業、
一般貨物自動車運送業
- ・対象期間・・・・・・・・・・2023年10月1日～2024年9月30日
- ・環境経営レポート作成日・・・・2025年1月31日

株式会社永広産業は、建設現場及び本社内の事業活動から生ずる環境への影響を考慮し、環境との共生・調和を基本理念に、持続可能な事業への取組みを推進し、事業活動を通して更なる省エネルギーや資源の有効活用、廃棄物の発生抑制、及び燃料供給の効率化を推進し、地域の環境保全に貢献する。

- 1 当社事業活動により起因する環境負荷を低減するため、環境経営計画に基づいた事業活動を継続的に実施・改善するとともに、創意工夫によりエコアクション21を推進する。
- 2 当社事業活動に係る環境影響のうち、下記事項を重視して環境負荷の低減を図る。
 - (1)電力、燃料等のエネルギーの効率的な使用及び省エネによる二酸化炭素排出量の削減
 - (2)産業廃棄物排出量の削減
 - (3)節水に努め、水使用量の削減
 - (4)建設副産物の抑制に努め、分別を積極的に行い、リサイクルの推進
 - (5)エコ設備等の推進、エコに関する情報の収集・共有及び発信
 - (6)リサイクル品使用や騒音・振動防止、施工方法の見直しによる環境に配慮した工事施工
- 3 当社事業に関する環境関連法規等を遵守するとともに、社内及び関連会社に情報提供し周知を図る。
- 4 地域貢献活動を推進する。

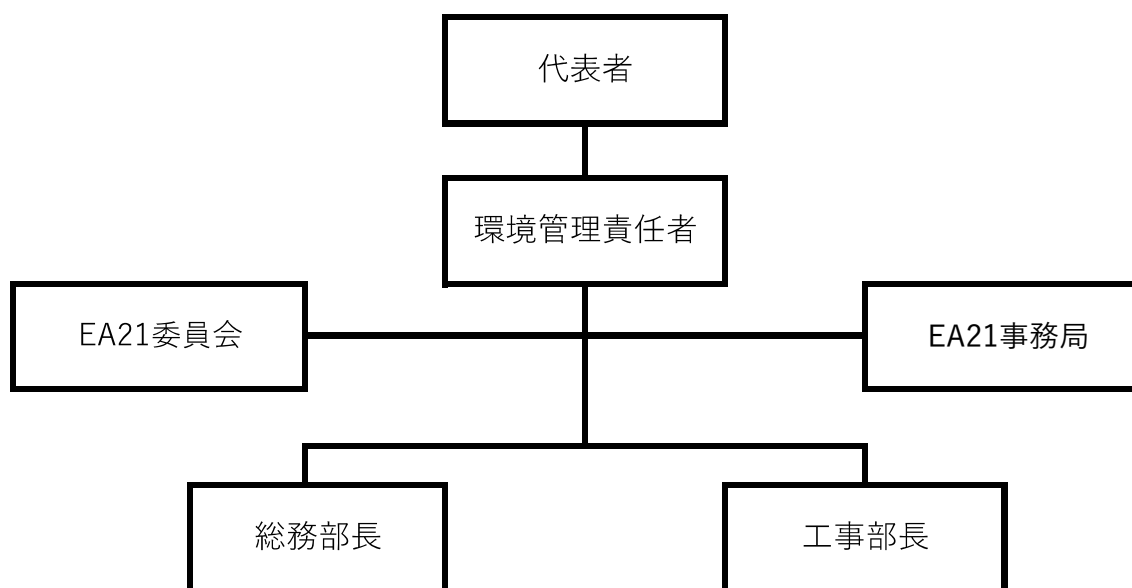
制定日 2022年10月1日

改定日 2024年10月1日



株式会社永広産業

代表取締役 永広和也



所 属	役割・責任・権限
代表者	- 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ - 環境経営方針を作成見直し、従業員に周知する - 環境管理責任者、EA21事務局員を任命する - 環境への取組を実施するための資源（人もの金）を準備する - EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	- EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる - 毎年、環境経営目標、環境経営計画を作成する 3か月に1回、環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況を確認評価する - 上記の結果を代表者に報告する
EA21委員会	3か月に1回開催し、環境経営目標及び環境経営計画の実施状況を審議する
EA21事務局	- 環境管理責任者を補佐し、EA 2 1 文書及び記録類、及び基礎データの作成維持集計管理を行う - 社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部門長	- 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する - 環境経営目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する - 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する - 自部門に関連する法規制等を順守する - 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する - 自部門の教育訓練を実施する
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する - 決められたことを守り、自主的積極的に環境活動へ参加する

	単位	基準年	目標			
		2020年度	2022年度 (1%削減)	2023年度 (2%削減)	2024年度 (3%削減)	2025年度 (4%削減)
		33期 2020年10月～2021年9月	35期 2022年10月～2023年9月	36期 2023年10月～2024年9月	37期 2024年10月～2025年9月	38期 2025年10月～2025年9月
1. 二酸化炭素排出量	kg・CO ₂	160,422.47	158,818.25	157,214.02	155,609.80	154,005.57
(1)電気使用量	kWh	14,531.00	14,385.69	14,240.38	14,095.07	13,949.76
本社	kWh	3,415.00	3,380.85	3,346.70	3,312.55	3,278.40
現場	kWh	11,116.00	11,004.84	10,893.68	10,782.52	10,671.36
(2)ガソリン使用量	ℓ	2,945.98	2,916.52	2,887.06	2,857.60	2,828.14
本社	ℓ	970.07	960.37	950.67	940.97	931.27
現場	ℓ	1,975.91	1,956.15	1,936.39	1,916.63	1,896.87
(3)軽油	ℓ	56,710.30	56,143.20	55,576.09	55,008.99	54,441.89
え	ℓ	710.30	703.20	696.09	688.99	681.89
現場	ℓ	56,000.00	55,440.00	54,880.00	54,320.00	53,760.00
(4)灯油 現場	ℓ	640.00	633.60	627.20	620.80	614.40
2. 廃棄物排出量	t					
一般廃棄物排出量	kg	実績量未把握	996.00	986.04	976.08	966.12
産業廃棄物排出量	t	3,250.00	3,217.50	3,185.00	3,152.50	3,120.00
3. 水使用量	m ³	実績量未把握	36	35.64	35.28	34.92
4. 化学物質使用量	m ³	実績量未把握	数量把握	—	—	—
5. 環境に配慮した工事施工						
工期短縮	日	実績日数未把握	—	20	20	20
手戻り・手直し工事	件	実績件数未把握	—	0	0	0
6. 地域貢献活動	件	1	1	2	2	2

- 備考
1. 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.479kg-CO₂/kWh（九州電力 令和4年度・調整後）を使用した。
 2. ここでは省エネルギー型製品を使用する。
 3. 2022年1月までは水使用量は井戸水使用のため今回から把握する。
 4. 元請での入札による公共工事を対象とする。
 5. 作業終了日翌日から工期末日までを短縮日数とする。手直し工事は施工不良が原因のもののみとする。

1.二酸化炭素排出量の削減

活動項目		具体的な取組内容		部門（責任者）	スケジュール
1	電気使用量削減	1	昼休み、退出時等、不要な箇所の消灯を行う	総務部門（永広） 工事部門（有働）	通年
		2	エアコンの設定温度（暖房21℃、冷房27℃）		夏冬期
		3	長期間使用しないものはコンセントを抜く		通年
		4	エアコンのフィルター清掃を定期的を実施し、エネルギー効率を向上させる。		夏冬期
2	ガソリン使用量削減	1	急発進、急加速、急停止、不要なアイドリングの禁止	工事現場 （現場代理人）	通年
		2	タイヤ圧の点検、車両整備点検の実施		通年
		3	エアコン使用を極力控える		通年
3	軽油使用量削減	1	急発進、急加速、急停止、不要なアイドリングの禁止	工事現場 （現場代理人）	通年
		2	タイヤ圧の点検、車両整備点検の実施		通年
		3	エアコン使用を極力控える		通年
		4	過積載の防止		通年
		5	自社給油所（軽油専用）の月1回の目視点検、年1回の精密検査をする		通年
4	灯油使用量の削減	1	不要な使用をしない	総務部門（永広） 工事部門（有働）	通年

2.廃棄物排出量削減

活動項目		具体的な取組内容		部門（責任者）	スケジュール
1	一般廃棄物排出量の削減	1	不要コピー用紙の裏紙使用	総務部門（永広）	通年
		2	分別の徹底		通年
		3	請求書と給与明細の電子化を推進し、紙使用量を削減。		通年
2	産業廃棄物排出量の削減	1	分別の徹底	工事現場 （現場代理人）	通年
		2	適切なリサイクル業者の選定		通年

3.水使用量削減

活動項目		具体的な取組内容		部門（責任者）	スケジュール
1	水使用量の削減	1	節水習慣の徹底	総務部門（永広）	通年

4.化学物質使用量の削減

活動項目		具体的な取組内容		部門（責任者）	スケジュール
1	化学物質使用量の削減	1	化学物質使用量の把握	工事現場 （現場代理人）	通年
		2	化学物質使用量の削減検討		通年

5.環境に配慮した工事施工

活動項目		具体的な取組内容		部門（責任者）	スケジュール
1	環境に配慮した工事施工	1	リサイクル品使用の利用推進	工事現場 （現場代理人）	通年
		2	工事による廃材・汚泥の適正処理		通年
		3	騒音・振動防止の推進		通年
		4	環境に配慮した施工方法の採用		通年
		5	低騒音・低振動・低排出ガス型機械の使用		通年
		6	ICT施工の活用		通年
		7	より近いところからの資材調達		通年
		8	手戻り・手直し工事のゼロ		通年
		9	現場発生品の活用		通年
		10	実行予算の圧縮（コスト削減）		通年

6.地域貢献活動の推進

活動項目		具体的な取組内容		部門（責任者）	スケジュール
1	地域貢献活動の推進	1	地域清掃の実施	総務部門（永広）	通年

◎：よくできた ○：できた △：十分でなかった

環境経営目標の達成状況及び その評価結果

■6-1 達成状況

	単位	基準年	目標	実績	評価	
		2020年度	2023年度 (2%削減)		達成率 (%)	評価
		33期 2020年10月～2021年9月	36期 2023年10月～2024年9月			
1. 二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	160,422.47	157,214.02	261,418.25	60.14	×
(1)電気使用量	kWh	14,531.00	14,240.38	49,377.00	28.84	×
本社	kWh	3,415.00	3,346.70	9,924.00	33.72	×
現場	kWh	11,116.00	10,893.68	39,453.00	27.61	×
(2)ガソリン使用量	ℓ	2,945.98	2,887.06	5,576.43	51.77	×
本社	ℓ	970.07	950.67	451.30	210.65	○
現場	ℓ	1,975.91	1,936.39	5,125.13	37.78	×
(3)軽油	ℓ	56,710.30	55,576.09	87,085.25	63.82	×
本社	ℓ	710.30	696.09	1,937.09	35.94	×
現場	ℓ	56,000.00	54,880.00	85,148.16	64.45	×
(4)灯油 現場	ℓ	640.00	627.20	60.00	1,045.33	○
2. 廃棄物排出量	t					
一般廃棄物排出量	kg	実績量未把握	986.04	482.10	204.53	○
産業廃棄物排出量	t	3,250.00	3,185.00	886.08	359.45	○
3. 水使用量	m ³	実績量未把握	35.64	20.00	178.20	○
4. 化学物質使用量	m ³	実績量未把握	—	—	100	○
5. 環境に配慮した工事施工						
工期短縮	日	実績日数未把握	20	20	100	○
手戻り・手直し工事	件	実績件数未把握	0	0	100	○
6. 地域貢献活動	件	1	2	2	100	○

備考 評価は達成率100%以上=○、達成率70%以上100%未満=△、達成率70%未満=×とする。

■6-2 評価（対策）

項目		評価結果	対策
1. 二酸化炭素排出量	電気	節電の意識も高まってきたが目標達成できなかった。要因は比較する基準年度時の本社が仮事務所であったのと、エアコン1台増加、防犯カメラを設置したためだと考える。	環境経営目標を実態にあった新たな目標値を次年度から再設定することを検討する。また照明のLED化や使用時間の見直しを行う。
	ガソリン	エコドライブに努めたが目標達成できなかった。要因は建設現場作業規模拡大によるものであると考える。	エコドライブの徹底と配車の効率化（乗り合わせ等）を図りガソリンの使用量を削減する。
	軽油	エコモード運転の意識向上を進めたが、重機運搬事業の拡大による燃料消費増加の影響で目標を達成できなかった。今後は運搬業務の効率化を図り、目標達成を目指す。	ルート最適化と運搬回数削減を実施。自社給油所のデータを分析して改善策を実施したい。
	灯油	目標値は達成できた。要因は灯油を使用する現場事務所が少なかったためだと考える。	現状維持に努める。
2. 廃棄物排出量	一般廃棄物	目標値は達成できた。要因はペーパーレス化の推進でコピー用紙の削減を図った結果であると考え。	更なる一般廃棄物排出量の削減に向け、引き続きペーパーレス化を図り、繰返し使用可能な物品購入を徹底する。
	産業廃棄物	目標値は達成できた。要因は産廃が多く発生しない現場だったためだと考える。	現場の状況でやむを得ないところもあるが、分別を徹底し引き続き経営計画を実施していく。
3. 水使用量		目標値は達成できた。要因は節水を意識したことと、現場に行くことが多かったことだと考える。	引き続きも節水を意識し、会社を挙げ徹底していく。
4. 化学物質使用量		今期間における使用はなかった。	現状維持に努める。
5. 環境に配慮した工事施工	工期短縮	目標値は達成できた。要因はICT施工工事の活用で生産性向上を図り効率的に施工できたからだと考える。	引き続き工事進捗に合わせて設計図書との照合を徹底していく。
	手戻り・手直し工事	目標値は達成できた。要因はICT施工工事の活用で余裕をもって施工できたことであると考え。	引き続き工事進捗に合わせて設計図書との照合を徹底していく。
6. 地域貢献活動		目標値は達成できた。今年度も協会のボランティア活動に2回参加し社会貢献に努めた。	引き続きボランティア活動等に積極的に参加していく。

■6-3 燃料使用量・CO2排出量・電気使用量の比較

当社では2024年4月より重機運搬業を本格的に開始し、事業規模の拡大に伴い、燃料使用量およびCO2排出量が増加しました。

また、今年度は受注工事の件数自体に大きな変化はないものの、設備の使用頻度が増加したことで、電気使用量が増えました。

なお、環境経営目標の達成状況では、基準年（2020年）をもとに目標を設定し、実績を比較していますが、今回のデータ分析では前年（直近年度）との比較をしています。

これは、2021年8月末に新しい事務所を建設しており、基準年（2020年）との単純比較が難しいためです。

前年（2023年1月～9月）は9か月分のデータであったため、12か月換算したデータと比較すると、以下のような増加傾向が確認されました。

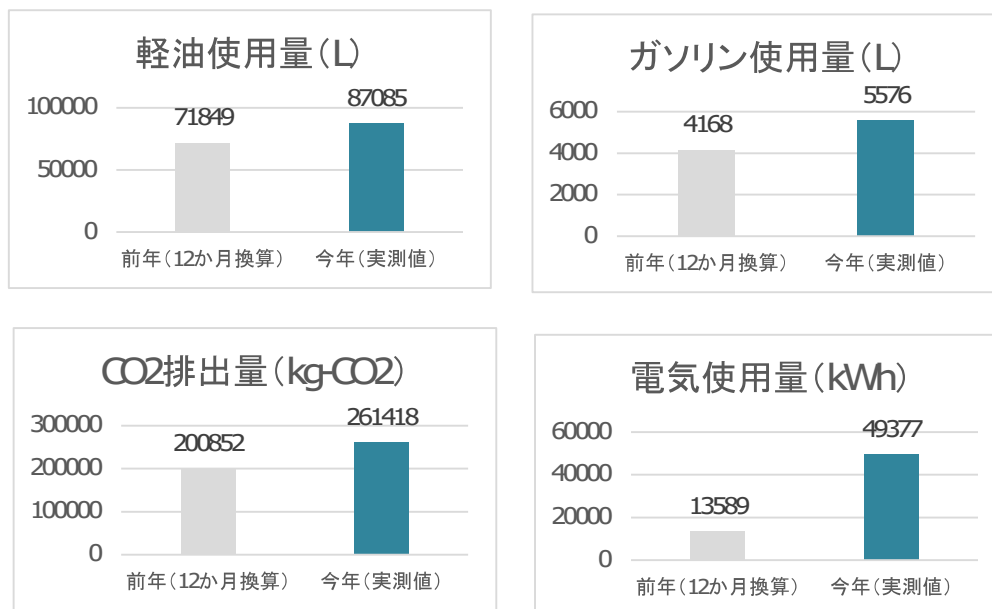
■ 計算方法

前年の9か月分のデータを 1.33倍（ $12 \div 9$ ）して、12か月換算した数値を算出しています。

■ データ比較

- 軽油使用量：前年（12か月換算）71,849L → 今年 87,085L（約21.2%増加）
- ガソリン使用量：前年（12か月換算）4,168L → 今年 5,576L（約33.8%増加）
- CO2排出量：前年（12か月換算）200,852t-CO2 → 今年 261,418t-CO2（約30.2%増加）
- 電気使用量：前年（12か月換算）13,589kWh → 今年 49,377kWh（約263.4%増加）

以下に、これらの変化をグラフで示します。



■ 電気使用量の増加要因

電気使用量の増加要因としては、「工事内容の変化に伴う電力消費の増加」に加え、「防犯カメラの設置」が影響しています。

特に、工事現場では電動機械や照明設備を多く使用する作業が増えたことにより、電力消費量が増加しました。

環境経営計画の実施状況及び評価結果、 次年度の取組内容

1.二酸化炭素排出量の削減

活動項目	具体的な取組内容	部門（責任者）	取組結果	評価内容（今後の方向）	評価
1	電気使用量削減	1 昼休み、退出時等、不要な箇所の消灯を行う 2 エアコンの設定温度（暖房21℃、冷房27℃） 3 長期間使用しないものはコンセントを抜く 4 エアコンのフィルター清掃を定期的に実施し、エネルギー効率を向上させる。	総務部門（永広） 工事部門（有働）	達成・未達	◎
				達成・未達	◎
				達成・未達	◎
				達成・未達	◎
2	ガソリン使用量削減	1 急発進、急加速、急停止、不要なアイドリングの禁止 2 タイヤ圧の点検、車両整備点検の実施 3 エアコン使用を極力控える	工事現場（現場代理人）	達成・未達	◎
				達成・未達	○
				達成・未達	△
3	軽油使用量削減	1 急発進、急加速、急停止、不要なアイドリングの禁止 2 タイヤ圧の点検、車両整備点検の実施 3 エアコン使用を極力控える 4 過積載の防止 5 自社給油所（軽油専用）の月1回の目視点検、年1回の精密検査をする	工事現場（現場代理人）	達成・未達	○
				達成・未達	○
				達成・未達	△
				達成・未達	○
				達成・未達	○
4	灯油使用量の削減	1 不要な使用をしない	総務部門（永広） 工事部門（有働）	達成・未達	◎

2.廃棄物排出量削減

活動項目	具体的な取組内容	部門（責任者）	取組結果	評価内容（今後の方向）	評価
1	一般廃棄物排出量の削減	総務部門（永広）	達成・未達	紙類利用・両面印刷促進で実施できた。今後も継続していく。	○
			達成・未達	ほぼ実施できた。今後はマイバッグ・マイボトルの取組について検討を重ねる。	○
			達成・未達	徐々にだが電子化を進めることができ、紙削減になった。完全電子化できるように新たな施策を検討したい。	○
2	産業廃棄物排出量の削減	工事現場（現場代理人）	達成・未達	実施できている。今後も継続していく。	◎
			達成・未達	マニフェスト伝票を交付・保管している。今後も継続していく。	◎

3.水使用量削減

活動項目	具体的な取組内容	部門（責任者）	取組結果	評価内容（今後の方向）	評価
1	水使用量の削減	1 節水習慣の徹底	総務部門（永広）	呼びかけ、張り紙により実施できた。今後も継続していく。	○

4.化学物質使用量の削減

活動項目	具体的な取組内容	部門（責任者）	取組結果	評価内容（今後の方向）	評価
1	化学物質使用量の削減	工事現場（現場代理人）	達成・未達	把握できた。現状維持に努める。	○
			達成・未達	現状維持に努める。	○

5.環境に配慮した工事施工

活動項目	具体的な取組内容	部門（責任者）	取組結果	評価内容（今後の方向）	評価
1	環境に配慮した工事施工	工事現場（現場代理人）	達成・未達	再生クラッシュランなどを使用している。今後も継続していく。	○
			達成・未達	マニフェスト伝票を作成・保管している。今後も継続していく。	○
			達成・未達	作業時間等を厳守。建設機械の操作でストロークエンドまで操作しないことなどに注意している。今後も継続していく。	○
			達成・未達	効率の良い機械を選択し、工期短縮、燃費効率の向上を図っている。今後も継続していく。	○
			達成・未達	すべての機械で達成できている。今後も継続していく。	◎
			達成・未達	実施できた。今後も継続していく。	◎
			達成・未達	近場で調達可能な材料は実施できている。今後も継続していく。	○
			達成・未達	工事進捗に合わせて設計図書との照合を徹底し実行できた。今後も継続していく。	○
			達成・未達	発生土の活用を実施した。今後も継続していく。	○
			達成・未達	ICT施工工事の活用により燃料費、人件費削減で生産性が上がりコスト削減できた。今後も継続していく。	○

6.地域貢献活動の推進

活動項目		具体的な取組内容		部門（責任者）	取組結果	評価内容（今後の方向）	評価
1	地域貢献活動の推進	1	地域清掃の実施	総務部門（永広）	達成・未達	協会の清掃ボランティア活動に参加した。今後も継続していく。	○

〈評価〉◎：よくできた ○：できた △：十分でなかった

■次年度の取組内容

2024年度も2023年度の取組みを継続して取り組む。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に適用される環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等	適用される事項（施設・物質・活動等）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出マニフェストの交付・回収・保管 の適正処理
建設リサイクル法	建設廃棄物の再資源化の促進
騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守
振動規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守
大気汚濁防止法	事故時の措置と届出 排出基準の遵守
水質汚濁防止法	特定施設の届出 排出基準の遵守
フロン排出抑制法	空調機の簡易定期点検
消防法	危険物の取扱届出 危険物保安監督者の選任 소화設備の設置 소화設備の点検・維持管理

■環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果
遵守されていることを確認しました。

■環境法規制等への違反、訴訟等の有無
違反、訴訟等はありません。

代表者による全体の取組状況の 評価と見直し・指示の結果

■見直し関連情報

項目	評価・コメント
1 エコアクション21文書	概ね適切に作成・管理されている
2 環境経営目標及び目標達成状況	未達成のものは次年度積極的に取り組みたい
3 環境経営計画及び取り組み実施状況	全員参加で活動できた
4 環境関連法規要求一覧及び遵守状況	違反・訴訟及び外部からの苦情・要望はなかった
5 外部コミュニケーション・対応記録	エコに係る苦情等はなかった
6 問題点の是正・予防措置の実施状況	特に問題なかった
7 その他	なし

■代表者による全体評価・環境経営システムの各要素の見直し

全体評価：

今回もエコアクション21を基盤に、環境活動に取り組んでまいりました。電力やガソリン、軽油の使用量削減については、受注工事の内容や重機運搬事業の拡大の影響もあり、目標達成には至りませんでしたが改善に向けた取り組みを継続しています。一方で、本社でのガソリン使用量は前年比約52.5%の削減が達成できました。エコドライブの実施（アイドリングストップや適正速度の維持）、電子申請を活用し業務のデジタル化を進めることでガソリン車の使用を控えることを徹底し、ガソリン使用量の大幅な削減に寄与しました。

また、令和6年8月には自社軽油給油所を設置し、燃料供給の効率化やCO2排出量の削減を図るための新たな取り組みを開始しました。現在はまだ設置直後であり、具体的な効果測定はこれからですが、今後は給油データを月次で収集・分析し、車両ごとの燃費管理を強化します。これにより、効率的な運用を確立し、無駄な燃料消費の削減を目指します。

短期的には、自社給油所のデータを分析し、効率的な運用を確立することで、次年度までに燃料使用量を2%削減することを目標とします。長期的には、ハイブリッド車や低燃費ディーゼル車への切り替えを計画し、5年以内に燃料消費量を基準年比で10%削減することを目指します。

こうした成果と課題を真摯に受け止め、今後は物流の効率化や燃費性能の高い車両の導入、エコドライブの徹底などを通じて燃料使用量の削減に取り組んでまいります。また、省エネ機器の導入（LED照明やエネルギー効率の高い空調設備）や社員一人ひとりの意識改革を進め、電力使用量削減の目標達成を目指します。

私は令和6年9月より新たに代表取締役社長に就任し、この新たな役割を通じて、環境経営をこれまで以上に重視し、持続可能な未来の実現に向けた取り組みを一層強化してまいります。同時に、社名を『株式会社永広産業』に変更し、これまでの事業領域を拡大し、環境への取り組みをさらに強化する決意です。これにより、企業の持続的成長と社会的責任を果たすための基盤をより一層強化してまいります。新たな体制のもと、環境経営を企業戦略の中心に据え、持続可能な社会と地球環境に貢献する企業を目指します。これまでの取り組みを活かし、より実効性の高い環境活動を推進してまいります。

令和7年1月31日 ㈱永広産業 代表取締役 永広和也

項目	変更の必要性	「有」の場合の指示事項
1 環境方針	有	自社給油所（軽油専用）の設置
2 環境目標	有	長期的には、ハイブリッド車や低燃費ディーゼル車への切り替えを計画し、5年以内に燃料消費量を基準年比で10%削減
3 環境活動計画	無	
4 環境に関する組織	無	
5 その他のシステムの要素	無	
6 その他（外部への対応）	無	